

活

動

地

図

重 兼 亘

昭和33年、発足以来のすべての活動は発足以来の計画、「離島調査5ヶ年計画」の基準に沿つてなされたものである。

活動の内容の詳細は明記の活動日誌を参照していただく事にして、ここではその概略と今後の課題について簡単に述べて見ようと思う。

産業新聞社の後援による、33年の鹿児島県の屋久島の調査及び大阪市立大学探検部との合同によるトカラ諸島の調査に始まる。「離島調査5ヶ年計画」は都立から遠くはなれたいわゆる「忘れられた島々」を歴訪し、その風俗、習慣、文化等についての調査を行い、離島における島民達の根深い生活態度を世に伝え、その認識を新たにすると共に、現地の青年との友情の交歓をその目的とする主旨のもとに計画されたものである。

オー一回調査に引続き34年には気候差による日本の南北両端の調査を目標に、礼文島・与論島の両島にそれぞれ二度にわたり調査隊を派遣している。その間体力的錬磨を目的として、34年度には琵琶湖畔、比良山に、35年度は大峯山脈縦走合宿にそれぞれ夏季休暇を利用して野営訓練を行なつていく。

その他我が部が上記の島以外に過去3年間に調査を行った離島には、喜界島、油倉島、塩飽諸島（いづれも後附の地図参照）等が数えられる。

今年度の春期計画としては、毎日新聞社後援による、北海道の焼尻、天売、両島の生活調査及び岡山県新見市の洞窟の未知のルートの解明の両目的を遂行中である。（36年度春期調査計画書参照）

これら 離島調査5ヶ年計画と並行して、一昨年より、ニューギニアへの調査隊派遣計画がすすめられている。その一端として「ニューギニア研究会」が部内に設けられ計画遂行に当り、又これと関連して探検英会話講習を週に一度開き部長の加藤一郎助教授の指導を受けている。

しかし発足以来まだ年限が浅い事と経験の乏しさにより快心の成果を上げることが出来なかつたのは部員一同深く反省すると共に更に次回探検への熱意と錬磨に心掛る様戒め合つているのである。ともあれ海外遠征に伴う困難なる煩雑さ、と

国内調査活動のバランスの具合、即ち海外遠征は我々採検部員全員の夢であるが、かと言って海外遠征計画のみを追い求めて国内調査活動を省みないのもクラブ活動の在り方から言つて遺憾なことであろう。加えて本学は綜合大学とはいえ自然科学系学部が少ない関係上、部員もそのほとんどが人文、社会科学系統を専攻する学生が多いので、礁島調査や洞窟その他の調査を行つても、どうしても、地質、生物その他自然科学部門に空白ができ調査範囲をせばめられるさらいがある。もちろん部内に於ても新聞学を専攻しながら動物学に興味を持ちその方の研究をしている変り種もいるし、又そういう立場の部員が多くいても大いに結構なのだが、多くの成果を彼等に望むないのは事実である。

海外遠征と国内調査のクラブ活動としてのバランス調整の向類及び調査の向類設定に於ける自然科学部門と専攻科目との関係、これらが今後我々が真剣に検討し考えねばならない向類である。

— 紡績部品専門製造 —

渡辺スピンドル株式会社

大阪市城東区北中浜町4の30

TEL (07) 5544~5

